

公益社団法人全日本テコンドー協会 会長金原昇様  
公益社団法人全日本テコンドー協会 理事皆様

#### 熊本県協会の現状

今の熊本の現状は、皆様もご存じのとおり、相変わらず樋口体制で固められております。理事の全員が、樋口氏のやる事に賛同し、全日本協会の処分に反発する組織になりました。熊本県協会理事達は、全日本協会イコール悪だと、若いころから教えられ、樋口氏のする事が一番なのだと、洗脳されています。5月19日の熊本県協会の総会でも、樋口氏会長続投が決定されました。除名になり選手が大会に出れないのに会長続投、そして、東アジア連盟加盟、さらに、全日本協会から来た会員宛の手紙に対しても反発、6月9日はこんな状況の中、熊本県大会も行われます。全くと言っていいほど、全日本協会への反省、改善、歩み寄りがございません。

私は、熊本県協会に対し2年前よりルールを守って、協力するように関係改善に努めました。が無理だと判断しました。それは、熊本県協会を変えるには、全日本協会の強く、厳しい処分が必要だと思ったからです。樋口氏1人の処分ではなく、熊本県協会の組織処分もやらねば、相変わらず全日本協会を、甘く見続けます。東アジア連盟調印式を主催する樋口氏それに参加する熊本県理事達、両方が悪いのだと両罪法で行かなくては何も変わりません。全ての意識改革が今必要です。

#### 熊本県協会の今後

今私は、相変わらず全日本協会に反発する熊本県協会のやり方に反発し、全日本協会と共に歩んでくれる指導者と保護者、選手達と組織を立ち上げました。仮名 (kumamoto taekwondo club)

同じ考えを持つ指導者保護者とのディスカッションの中で、始めて今まで熊本県協会に持っていた不満を聞く事が出来ました。皆さん不満だらけでした。どうしたら、この反発組織の体質を変えられるか？熊本県協会を風通し良く出来るか？その方法を考えました。

##### 1、熊本県協会と全日本協会の取引停止 (選手を出さない)

ルールを守らない熊本県協会との窓口を閉めることで、理事達の意識を変える。

今まで、直訴状を出して選手を出してきた経緯を理事保護者は知りません。

大会に出場出来なくなると理事保護者は心配します。(5月17日に別府様より送られた手紙も保護者の間で問題になりました)。

##### 2、私の組織 (kumamoto taekwondo club) との窓口を開いてもらう。(選手をここから出す)

ルールを守ってきた私達とルールを破ってきた熊本県協会を、区別することで保護者、

選手の意思が代わり、自然と熊本県協会の選手が私の所へ流れ、全日本協会に対する意識が変わる。(熊本県協会に在籍したら、試合に出れないようにすることで、保護者、選手が騒ぎ出します。)

3、全日本協会の管理下に置く。

熊本県協会に何度改善を求めても、上辺だけで中身は変わりません。

騙されないように注意が必要です。その為にも、私の組織から選手を出し、全日本協会のルールに従うよう指導する必要があります。

そして、全日本協会と熊本県協会との話し合いを作り、和解に向けスタートする事が望ましいと思います。」

最後になりますが、私はこれまで選手の擁護という意味で、熊本県協会のする事、樋口氏のする事に片目をつぶって、懸命に審判をしてきました。ここへきて改めて気付かされました。熊本県協会は、良くなるどころか悪い方向に向かっています。

そして、勇気を出し熊本県協会を脱退し同じ志を持った指導者と戦う事を決めました。

現在熊本県テコンドー協会に所属する全選手の、今年 1 年間の全日本主催大会出場停止を提案致します。これが、今後の熊本県協会の選手の本当の擁護になるのではと考えます。皆様のご審議をお願いします。

平成 25 年 6 月 8 日

公益社団法人全日本テコンドー協会

審判委員、強化委員、昇段委員

Kumamoto Taekwondo Club (仮名)

西村紀幸